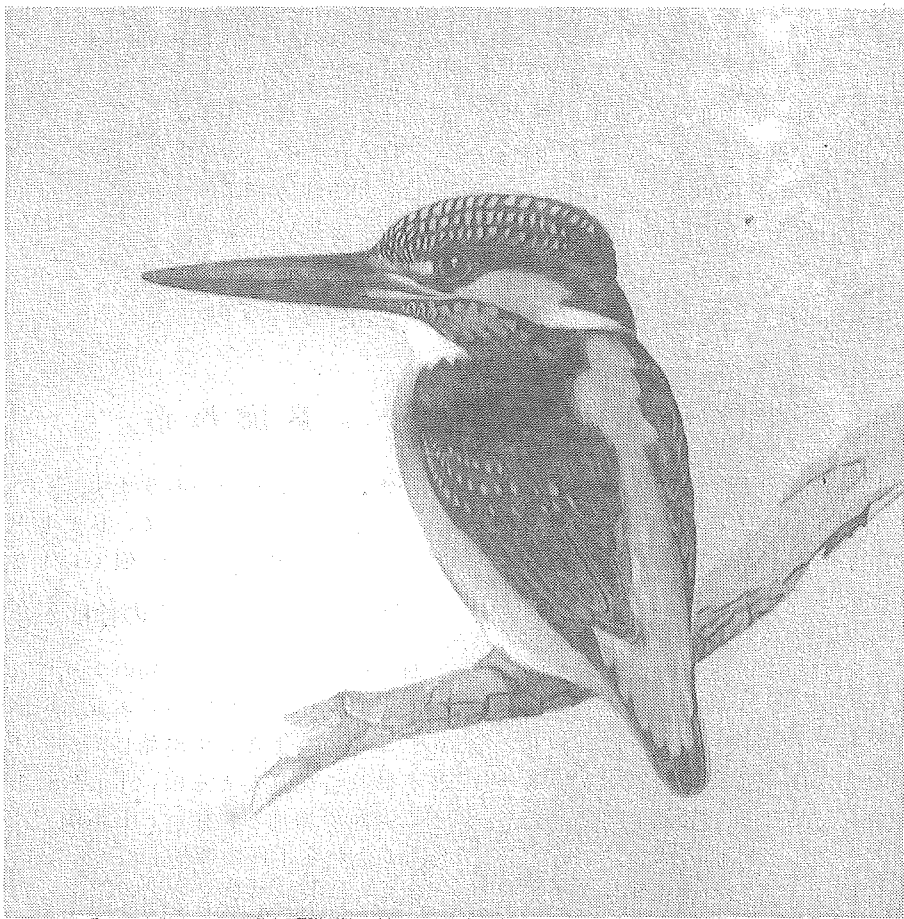


1984・8

第 3 号

しらこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



ご あ い さ つ

日本野鳥の会埼玉県支部副支部長 田村 照治

日本野鳥の会に入会し、自然と鳥との触れあいを求めてバードウォッチングに参加して、心美しい多くの人々との出あいがあった。特に、Iさんという先輩が寄居で活発な活動をしていることを知り、私は、この先輩に大いに啓蒙される点が多かった。

日本野鳥の会埼玉県支部ができるに当たっても、今年の初め、川本町、花園町、寄居町の会員に呼びかけ、3月上旬、Iさんの家を宿にして話しあいを持った。その時、すでに野鳥の会に愛想をつかし、参加しない人もあって人数も少なかったが、皆が各自の身の振り方について、意見を述べあった。その結果、よく話しあいながら全員一致で行動したい、という結論に達した。

3月14日のIさんと池谷さんとの話しあいや、その後の本部との話しあいなど、両者の意見をよく聞きながら、私たちの考え方は次第に煮つまっていったのです。

私たちは、日本野鳥の会の50年の歩みを受

けつぎ、縦の系列を保ちたい——そんな願いが、日本野鳥の会埼玉県支部発足につながったのかもしれない。

6月の下旬、教え子の招待で、台湾へ探鳥ツアーに行く。オウチュウやタカサゴモズの姿を探しながらの旅は、実にすばらしかった。空の碧さ、流れる白雲の美しさに、自分がかつて(中尉として)空中戦で駆けめぐった空を、このような立場で眺めることの感激に胸が一杯でした。

窓から見える沖縄で、20年の3月、4月に九州から飛び立ち二度と帰らぬ多くの戦友の思い出に、心から冥福を祈りました。

社会的にも私より立派な教え子に囲まれての探鳥会、何と素晴らしい旅だったことでしょう。どうか今後も、変らぬご支援をお願いします。

私は今後、多くの先輩にならい、皆さんの期待に沿うよう頑張りますので、ご指導とお力添えをお願いします。



自然保護はアメニティ意識から

経済の発展・成熟は、物質的な豊かさをもたらした反面、今日、人びとの価値観は多様化しており、特に精神的な豊かさを求めるようになってきています。

“生活環境”への人びとのニーズも、<公害のない><便利な>環境を確保するというだけでなく、「身近なところに、安らぎや潤いのある、快適で魅力ある環境を呼び戻したい」というように、高度な意識として高まっています。ところが、現実には、身近な緑や水辺、のびのびとした空間など、快適な環境(アメニティ)が、近年の都市化などの進展

で、急速に失われつつあります。

そのような状況にあって、私たちがいま、問われている課題は一体、何でしょうか。

野鳥の会には 多くの仲間が集う

日本野鳥の会は、ご存知のように、野鳥を中心にした多くの仲間の<ふれあい>を基軸に、「心の会」として出発したのです。そして、時代の流れとともに、「心の会」の膨らみと会員の増加とともに、わが国の<自然>にもかかわる「保護運動」の一端をになう面を備えた成長も遂げているのです。ただ、運



動団体は常に危険な綱渡りをしている、ということだけは、頭に入れておくべきだと考えるのです。

時代状況をトータルに認識しないで、過信してしまおうと、とんでもない方向へ走ってしまうのです。つまり、私たちをとりまく状況というのが果して、〈野鳥〉保護や、野鳥が指標となる〈自然〉保護だけに標的を定めてしまい、運動が先細りをしてしまっているのか、ということです。もちろん、野鳥の会ですから、〈野鳥〉に指標を定めることの重要さは強調されるべきでしょうが、それ以上に求める、人びとのアメニティの意識に広く眼を向け、その一環としての運動の視点が、ぜひ必要なのです。

野鳥の会は、〈自然〉に親しみながらも、多様な意識の仲間が集う運動体です。

野鳥の会は 「心の会」

それでは、運動体としての問題意識はどうあるべきでしょうか――。

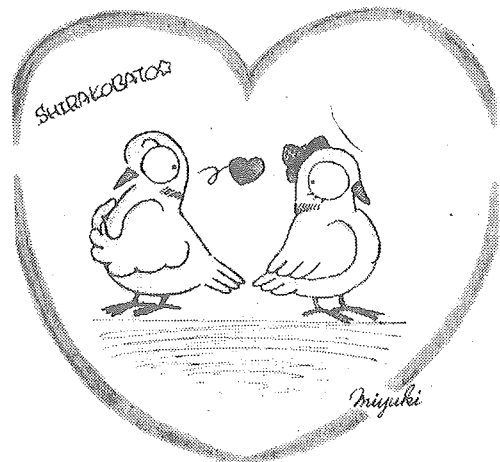
精神的な豊かさを求めている人びとが同調しうる「心の会」として、野鳥を指標とする〈自然〉保護運動の会でありたいのです。しかし、〈自然〉保護運動が、本来相いれない〈政治〉運動に終始してしまえば、すでにそこには、保護すべき〈自然〉が消失してしまいます。

自然とは、人の眼に映る風景ではなく、人の心に宿る〈自然〉への回帰の意識ではないのでしょうか。日本野鳥の会を、「心の会」と呼ぶのけた岩本久則さんのことばは、まさに名言なのです。

ですから、私たち日本野鳥の会埼玉県支部に課せられた問題も、県民のアメニティ意識がどこまでの高まりを示しているか、それを明確に把握しつつ、いま、環境問題として提起したいのです。環境と人間（精神的な豊かさ）との関係がどうなのか、常に「心の会」を私たちの底流にして、運動に膨らみを持たせようではありませんか。そして、国境のない野鳥たちの住みよい、「人間社会」というものを目指そうではないですか。

（文責・長野博行）

〈指針〉欄は、日本野鳥の会埼玉県支部の基本的な考え方に指針を与えていこうとする場です。あくまでも、試論的な問題提起ですので、ご批判など、ご意見をどんどんお寄せください。お待ちしております。



表紙絵（カワセミ）とイラスト風タイトルは

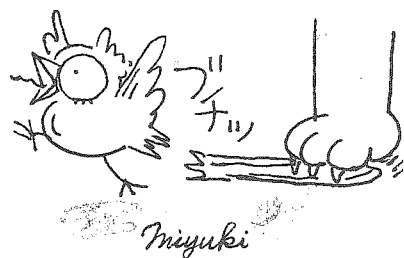
たか お まき なり
鷹 尾 正 濱（雅号）さん筆

バードウォッチング

野鳥へのアプローチ

法華の太鼓

森本國夫（大宮市）



目が覚めると雨が降っていたが、身支度を始めた。探鳥会が中止になったときの行き先もちゃんと考えてあるのだ。朝食もそこそこに愛車に飛び乗り、目指すは北本の石戸宿。

現地に着くと流石にリーダーの長野さんはいらしていた。そこに参加者が車に分乗して到着。中止どころか、東京の2人を含めて12人となった。挨拶が済んで、まずは本日の目玉の一つサンコウチョウの出そうな所へ。待つことしばし、「今日は出ませんねー」。先行きに一抔の不安を覚えながら、サンバを求めて移動開始。ところが出るのはキジバトばかり。しかし、ここでサンバを出さなきゃ！

と言うリーダーの一念が通じたのか、雨が小降りになり、「ピクティー」の鳴き声が。固唾を呑んで見守っていると、ヤッタ！木立の中から茶色の鳥が飛び立って電柱に。思わず傘を投げ出して望遠鏡に飛びついた。サンバですねー。やっと片目が明きました。

昼食を終えて、鳥合わせ。30種類は出るはずだったとリーダーはボンボン。しかしそれから良かったのです。雄のキジが畑に出てくれたし、帰りにはサンコウチョウも見られ更にはリーダーが、内緒にしていたアオバズクとタマシギ親子の所まで案内して下さったのです。雨の日でも参加してみるものですね。

野草についた野鳥の名

伊藤喜作（桶川市）

植物図鑑をめくってみますと、野鳥の名をつけた植物が、50種類以上もあります。その中で最も多いのは、スズメの何々、何々ホトトギス、カラスの何々、何々チドリ、数は少ないが、何々ヒヨドリ、トキソウ、サギソウ、ツバメオモトなどなど。

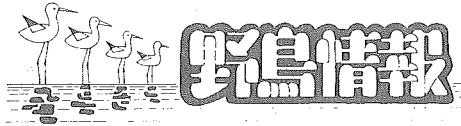
ふつう、「スズメの何々」という場合、イネ科の植物が多く、栽培植物に似ています。しかし、実も小さく、どこでも生え、田畑では、雑草として嫌われているものが多く、農耕生活的感覚でつけられた名称のようです。

「カラスの何々」では、カラスウリ、カラスノエンドウのように、野草としては比較的大きく、姿や形は食べられそうですが、食べられない、期待外れな感じはどうも、鳥としてのカラスのイメージとは少し、異なるように思いますが……？

「ホトトギス」は、ユリ科ホトトギス属の

十数種で、一般的なユリのイメージとは違って、派手さはなく、よく茶花として利用されています。花期は、早い種類で、7月ごろから初秋にかけて咲きます。花の斑点が、ホトトギスの胸の斑紋と似ているため、「ホトトギス」とつけられました。ただ、植物の方には、タマガワホトトギスのように黄色、ホトトギスのようにピンクなどがあります。

トキソウは、美しい、薄いピンクで、ラン科特有の、鳥が翼を広げたような姿をして初夏の湿原に咲き、昔、トキが日本中に沢山生息していたころのイメージにピッタリです。サギソウも同じく、ラン科の植物で、湿原に生え、夏、純白の花は、シラサギの群舞を思わせませう。サギソウ、トキソウともに、珍しい花ではありませんが、湿原の減少と、環境の悪化、特に人の採取などで、野生ではほとんど、見かけなくなりました。



ヨタカ ◇5月10日、寄居町桜沢、鳴き声。
 (石井生高) ◇6月15日午後6時ごろ、
 浦和市太田窪の善前小近くの雑木林、目の
 高さぐらいの枝に平行で。(近藤 崇)
 カイツブリのヒナ連れ ◇6月15日午後2時
 すぎ、桶川市荒川河川敷、ヒナ3羽。(長
 野博行) ◇6月21日午前9時ごろ、浦和
 市白幡沼、ヒナ2羽。(海老原美夫)
 バンのヒナ連れ ◇6月17日午後3時ごろ、
 桶川市川田谷沼、親2羽+ヒナ5羽。(長
 野博行)
 オオジシギ ◇6月中旬から20日間ぐらいに
 3回、所沢市米軍基地上空、鳴きながら飛

んでいた。(武藤健二)
 ヒヨドリ ◇6月25日、熊谷市本町、今井旅
 館の庭、ヒナ3羽巣立ち。(今井昌彦)
 ハクセキレイ ◇7月1日、桶川市役所車庫
 軒下、ヒナ4羽巣立ち。(長野博行)
 イワツバメ ◇7月5日午後2時ごろ、朝霞
 市、武蔵野線北朝霞駅の高架下、ツバメの巣
 27箇所ぐらいの中に、イワツバメの巣が2
 箇所混じっていた。(海老原美夫)

予報コーナー

浦和地方では、8月も末近くなると、渡り
 が始まります。子育てを終えたツバメたちは
 今年生れの若鳥たちも一緒になって、河原な
 どで大きな集団で群れているでしょう。とこ
 ろによっては、ショウドウツバメの群れが、
 あるいはタカブシギ、ツルシギ、ムナグロ、
 タシギ、ジシギなどが見られるでしょう。

子ども会バード

ウォッチングを計画中

子どもたちの遊び場が姿を消し、提防はコ
 ンクリートで固められ、野原は宅地化した。
 いま、吉川町では区画整理事業により、百年
 以上もの年輪をもつ大木が切り倒され、小川
 は、コンクリートと金網で仕切られ、子ども
 たちから、自然までもが取りあげられようと
 しています。

まだ緑が豊かな間に、自然の素晴らしさを
 子どもたちに見てもらいたい。水田で遊ぶ水
 鳥、大きな木に止ってさえずる鳥、森や林の
 中での鳥の合唱。自然の中で自由に遊ぶ鳥を
 知ってもらおうと、吉川町内での子どもたち
 との探鳥会を計画中です。

鳥カゴの中の小鳥よりも、庭のスズメの顔
 の素晴らしさを、一人でも多くの子どもたち
 に知ってもらいたいと思っています。

計画実行の際には、会員の皆様のご協力を
 ぜひ、お願いいたします。

吉川町・戸 張 勝 弘

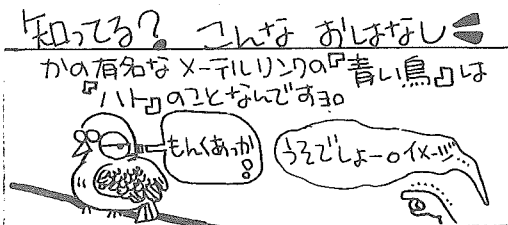


原田和也儀、都合(東京へ就職)で退会い
 たします。かわりに、父の私が入会いたしましたので、よろしく。

原 田 秀 雄(大滝村)

支部報『しらこばと』を読みました。考え
 方は、「会員の声」(創刊号)の戸田市H・
 Hさんと同じです。それに、貴支部へ入っ
 ていないと困ることがあります。なぜなら、私
 のディバッグには、「埼玉県支部」のワッペ
 ンがぬいつけてあるからです。

Y・Y(所沢市)





野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会当日の受付です。予約申込みは必要
ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれ
ば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円です。

8月5日(日) 宝登山(秩父愛鳥会共催)

午前9時秩父鉄道長瀬駅集合(大宮7
:31 発→熊谷8:10 着→秩父鉄道乗換熊
谷8:19 発→長瀬9:05 着/東武東上線志
木7:38 発→川越7:50 発→森林公園乗
換→寄居8:45 着→秩父鉄道乗換寄居8:
48 発→長瀬9:05 着/秩父鉄道お花畑8:
17 発→長瀬8:41 着) 何と、暑い最中
に山へ登るのです。トリさんたち、その
苦労にむくいてくれますか。

8月19日(日) 浦和市 三室地区(浦和市 立郷土博物館共催)

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7
:19 発→大宮8:02→京浜東北線乗換)
または午前9時市立郷土博物館前集合。
午後1時頃解散。参加費は無料。浦和市
郊外、見沼の夏鳥たちを観察。

8月26日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時30分秩父鉄道大麻生駅集合
(大宮7:31 発→熊谷8:10 着→秩父鉄
道乗換熊谷8:19 発→大麻生8:29 着/
秩父鉄道寄居7:47 発→大麻生8:05 着、
寄居8:22 発→大麻生8:40 着) 12時ご
ろ解散。そろそろ渡りが始まります。

8月27日(日) 大井野鳥公園平日探鳥会

午前8時川口駅ホーム中央付近。また

は午前9時品川駅東口か午前9時30分
現地集合。静かな平日の大井野鳥公園、
2度目です。期待一杯です。

9月2日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時30分大麻生駅集合(交通便
などは8月26日と同じ)2週続けての
探鳥会です。前の週とどんな変化がある
でしょうか。

9月16日(日) 浦和市 三室地区

8月19日と同じで、参加費無料の探
鳥会です。見沼の渡り鳥を、最初に見つ
けるのは誰ですか。

9月23日(日) 千葉県 谷津干潟(千葉県 支部共催)

午前8時15分武蔵野線南浦和駅西船
橋方面行ホーム中央付近集合(熊谷7:
19 発→浦和8:08→京浜東北線乗換/北
朝霞8:04 発→南浦和8:09 着/南越谷7
:50 発→南浦和8:04 着) 8:26 発西船
橋行乗車→9:12 西船橋着→総武線乗換
で津田沼下車、秋津・香澄団地行バスで
津田沼高校前下車、ここで千葉県支部の
人たちと合流。午後2時ごろ解散。渡り
途中のシギ・チドリをたっぷり観察。

9月24日(月、振休) 寄居町 鐘撞堂山

午前9時寄居駅北口集合(大宮7:31
発→熊谷8:10 着→秩父鉄道乗換熊谷8
:19 発→寄居8:48 着/東武東上線志木
7:38 発→川越7:50 発→森林公園乗換
→寄居8:45 着/八高線東飯能7:37 発
→寄居8:39 着) 午後2時ごろ解散。山
頂で、サシバをはじめとするタカ類、ヒ
ヨドリ、カケスなどの渡りを見ます。



フタ

探鳥会報告



6月17日(日) 熊谷市 大麻生

人 34人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ コアジサシ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス 以上21種 (ここではホオジロやヒバリは一年中見られる。今頃は、オオヨシキリと、それに付随するようにカッコウが見られるのが特徴。この日も梢で鳴くカッコウが観察された)

6月17日(日) 浦和市 三室地区

人 52人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コジュケイ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス 以上23種 (巣立ちの季節。カルガモ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、8種の巣立ちピナあるいは若鳥を観察)

6月25日(月) 大井野鳥公園

人 7人 天気 曇時々雨 鳥 カイツブリ ヨシゴイ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ バン オオバン コチドリ シロチドリ イソシギ ソリハシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス 以上28種 (朝の内の雨で参加者は少なかったが、途中から雨もあがり、鳥はたくさん。とまっているヨシゴイとセッカをゆっくり観察。帰りには全員で本部ウォッチング)

7月1日(日) 熊谷市 大麻生

人 21人 天気 曇後晴 鳥 ダイサギ コサギ カルガモ ウズラ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス 以上24種 (勇壯なコアジサシのダイビングが見られた。時には彼も魚ににげられ、失敗して照れくさそうに上流に飛んで行った)


7月8日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川 雨のため中止

7月8日(日) 北本市 農事試験場跡地

人 12人 天気 雨 鳥 コサギ サシバ コジュケイ キジ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ サンコウチョウ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス 以上20種 (あずまやで昼食。その時までの出現数は17種。「あっ、キジだ!」の森本氏の声に注目すると、西方の畑斜面で舞台上上がったように8羽、雨にもめげずウロついているのではないか。鳥合せの時にコサギとオナガが出現。かくして20種となったのだ)

シンボルマークを

あなたの手で

1) 提案 〇 
「52人の22名がBIRD OFFICEのロゴ案を出した」
「これは、鳥の羽の形をモチーフにした」
「2023年の鳥のイラストをモチーフにした」
「と、中-3-には募集した全員の案に追加してもらった」
「1000(1000)を言わせた」
「1000(1000)を言わせた」
「2023年 5月21日 鳥のイラストをモチーフにした」
「2023年 5月21日 鳥のイラストをモチーフにした」

シンボルマークを書いてください。本誌の題字付近に、あるいはいずれ発行したいと思っている会員証や、旗、ワッペン、封筒、リーダーの腕章など、あらゆる場所に使えるような、みんなが親しめる、私たちのシンボルマークとなってくれるマークがほしいのです。一色で書いて、本年中に事務局まで送ってください。



探鳥会のお手伝いをお願い

ボランティアの申し出を続々といただいておりますが、まだまだ必要です。特に、探鳥会のお手伝いをしてくださる方、いらっしゃいませんか。公民館などの野鳥教室、自然観察会の指導依頼も相次いでいます。社会的に、私たちの活動は、幅広く多様なものが期待されています。

役員会は毎月第1金曜日

原則として毎月第1金曜日、熊谷市内今井旅館で、役員会が開かれています。探鳥会の予定、本支部のあり方、その他の問題などで議論がかわされています。役員会で討議すべき問題がありましたら、事務局までどうぞ。

なお、本紙の編集会議も、毎月第1土曜日(今月は4日)に開いています。事務局までお立ち寄りいただき、ご意見を自由にお寄せください。

探鳥会テキストをより良いものに

探鳥会テキストについて、従来通り1回ごとに作るべきか、全体的に通年使用できるものを作るべきか、あるいは、鳥が見られた環境を書く欄をつくっては、などと、いくつかの考えが寄せられました。より無駄の少ない、より良いテキストを作りたいと思います。ご意見をお聞かせください。

土曜日午後の事務局

土曜日午後の事務局はにぎやかです。雨が降っても、何人かたずねて来ます。こちらで編集会議をやっていると、それを聞いている人、あるいは、そちらの方で別な話をしている人、テキスト作りを手伝ってくれる人、いろいろです。特に毎月最後の土曜日の午後は、

題字「しらこばと」：日本野鳥の会会長・山下 静一

『しらこばと』発送作業の予定です。寄ってみませんか。

現在の会員数

7月20日現在で347人です。

訂正とおわび

第2号での探鳥会案内中、「坂戸市中央公民館」とあるのは「坂戸市千代田公民館」、8月11日の室内勉強会は、「午後1時30分から3時30分まで」の誤りでした。訂正しておわびいたします。

事務局日誌

- 6月20日・『しらこばと』入稿
- 6月25日・事業部会議、本部事業部との打合せ(本部事務局、草間、西城戸)
・『草加付近の野鳥』の著者で、戦前からの野鳥の会会員の野口英夫氏宅を訪問(海老原、川崎、西城戸)
- 6月30日・『しらこばと』のボランティアによる発送作業
- 7月6日・第3回役員会、熊谷青年会議所の市川氏からサマースクールでの探鳥会の指導依頼、協力を決定
- 7月7日・編集会議、事業部会議(7/14も)
- 7月11日・秩父愛鳥会の宮崎、新船の両氏が来局(宝登山探鳥会の打合せ)

編集後記

カイツブリのヒナは、縞模様のまま、親と同じくらいの大きさになり、タマシギは、幼鳥4羽を引連れて歩いています。サンコウチョウは、巣立ち直前のヒナに餌を運び、アオバズクはじっと、見張りを続けています。私たちは、シラコバトの三番子(?)に巣立ってもらおうとガンバリながら、心は早くも、秋の渡り鳥に向かっていきます。

(7月15日 海老原 美夫)

『しらこばと』

1984年8月号(第3号)

頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井 昌彦

発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130

印刷所 埼新印刷株式会社

銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金 316990

(無断転載を禁じます)